



「どうしたらこの地域に人が集まるだろうか？」人口減少社会を迎えたわが国の地方都市における共通するまちづくりの課題です。私は、地域に人が集まるためには、生活の糧となる「仕事」があることが重要だと考えます。言うまでもなく、人が生きていくためには食べ物が必要です。人には絶対には無くならない「農」をつくる基本価値としての「農」がこの地域にあります。食べ物をつくり、その食べ物に冷凍やフリーズドライといった「技術」や「加工」を施せば保存や運搬が可能となり、付加価値をつけて、より早く遠くに安く運ぶことができます。世界基準の安全管理に基づいた加工であれば、国内はもとより取り引きのなかった外国にも売れる可能性が広がります。これまで地域の外にお金を払っ

ていたまちが、外からお金が入ってくるまち、つまり稼ぐまちに変わる。結果、地域の経済がより早く大きく回り、豊かになる。そして、食や農の周辺ビジネスの裾野や機会が広がり、外からも集まってくるようになる。一言でいうと「十勝の強みである農業をさらに成長・変革させて、新たな仕事を創出する」これがオール十勝で進めてきた「フードバレーとかち」の考え方です。国においても、昨年、全国で八つの拠点都市を選定し、起業・創業の取り組みを優先的に支援する枠組みをつくりました。帯広市も札幌市と組んで、その拠点に加わることができました。過日、札幌で開かれた拠点都市の報告会で、フードバレーとかちについて説明する機会がありました。取り組みを通じて多くの事業構想が生まれ、新設会社数が増加したこと、そして事業創発プログラムに参加してくれた延べ500人の人たちが、その後も互いに繋がる「起業家コミュニティ」が、十勝に出来つつあることを紹介しました。こうした動きが、十勝・帯広の人口や税収の堅調な推移、公示地価や基準地価といった土地の価値の上昇などに結びついている可能性があることについて、内閣府の委員の方をはじめ、参加者の皆さんに大変熱心に議論をいただき、併せて期待の言葉をいただきました。

表1 火災発生状況

令和2年	帯広市	全国(概数)
総出火件数	32件	3万4602件
住宅火災	16件	1万468件
総死者数	4人	1321人
住宅火災による死者数	4人	862人

表2 帯広市の住宅火災被害状況

令和2年	設置なし	設置あり
負傷者	6人	0人
焼損床面積	470㎡	110㎡
損害額	1905万1000円	712万2000円

住宅用火災警報器は、煙や熱を感知し、火災が発生したことを知らせる警報器です。令和2年中における帯広市の住宅火災の被害状況を見ると、住宅用火災警報器を設置していた場合は、負傷者は出ておらず、また、未設置の場合に比べ、焼損床面積は約8割、損害額は約6割低くなっており、被害軽減に大きな効果があると言えます。(表1)

住宅用火災警報器のおかげで火災を防ぐことができた道内の事例

- 事例1** 台所でフライパンをこんろの火にかけたまま、居間で寝てしまったため、内容物が焦げて煙が部屋に充満した。煙に反応した住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、こんろの火を止めたため火災には至らなかった。
- 事例2** 調理中にIHクッキングヒーターから目を離れたことにより、鍋が空焚き状態となり、室内に煙が充満した。煙に反応した住宅用火災警報器の警報音で居住者が気づき、火災には至らなかった。

住宅用火災警報器の効果

今年全国で実施した住宅用火災警報器の設置状況の調査では、十勝は全国・全道平均よりも設置率が低いことが分かりました。(表3) 現在、住宅に設置してない場合は、早急に設置し、すでに設置している場合は定期的に点検しましょう。

表3 全国の設置率 (令和3年6月1日時点)

全国	83%
北海道	84%
十勝	79%

令和2年中の全国における総出火件数のうち、住宅火災の件数は約3割ですが、住宅火災による死者数は総死者数の約6割も占めています。帯広市においても、同年中の総出火件数の半数が住宅火災で、火災による死者は、すべて住宅火災によるものでした。(表1)

私たちの命を守る 住宅用火災警報器 住宅防火の切り札

果があると言えます。(表2) 住宅用火災警報器の設置状況

問い合わせ 26・9124

とかち広域消防局予防課 (西6南6、消防庁舎3階、☎)



ごみステーションを利用する際の注意点!

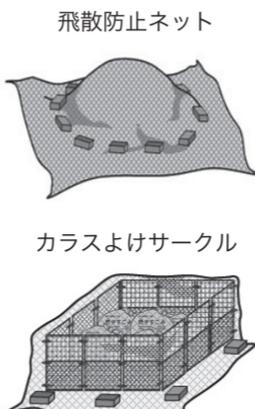
- CHECK!!** 自分の出したごみが収集されているか確認してください
- ルールを守らずにごみを出した場合、収集できない理由を書いた指導シールを貼ってごみステーションに置いていきます。ごみ出しの際には、前回自分の出したごみが収集されているかを確認してください。
- CHECK!!** マスクやティッシュペーパーは、「燃やすごみ」です
- 「プラスチック製容器包装」などの資源ごみの袋の中に使用済みのマスクやティッシュペーパーが誤って混入している場合があります。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、使用済みのマスクなどは「燃やすごみ」の指定袋に入れ、しっかりとしばってからごみステーションに出してください。

道路上にごみステーションを設置する場合は、固定式ではなく、飛散防止ネットや、折りたたみ式のガラスよけサークルなどを使用し、ごみ収集後は、通行の妨げにならないように収納してください。

ガラスよけサークルを活用しましょう

「ごみステーションの設置の手引き」を作成しました

固定式ごみボックスを道路上に設置するのは危険です



また、ごみステーションの新設や場所を変更する場合は、事前にご相談ください。

問い合わせ 清掃事業課 (西24北4、☎37・2311)

ルールを守って 正しくごみ出し ごみステーションは正しく安全に使いましょ